

**8月9日(木)SJWP 日本団が関空のホテル集合** 2007年08月23日(木)

8月9日(木)に SJWP 日本団が関空のホテルへ集合し、打ち合わせと最終練習を行いました。



**8月10日(金)スウェーデン・ストックホルムにて初日の夕食** 08月23日(木)

8月10日(金)の朝9時30分に関空を出発し、8月10日(金)午後2時ごろドイツフランクフルトに到着、そしてスウェーデン・ストックホルムのホテルに午後7時ごろ到着。初日の夕食は午後9時ごろとったのですが、時差7時間(夏時間)、つまり日本時間では午前5時ごろです。まだ、みんな元気な顔ですね。



**8月11日(土)通訳の原田さんと研究発表の最終打ち合わせ** 2007年08月23日(木)

8月11日(土)午前10時から、通訳の原田さんと研究発表の最終打ち合わせをしました。Q&Aの確認や答えの分担などの再確認です。その後、SJWPのマネージャーのElinさんが生徒たちを合宿所へとお迎えにきました。サーみんなどうなるんでしょうかねー。Englishは大丈夫でしょうかねー。どうですか心配そうな顔してますか？



**8月12日ポスター発表準備** 2007年08月24日(金)

ストックホルム青少年水大賞の審査は、事前に論文審査があります。今日は、ポスター発表によるインタビュー形式の審査です。まずは、5分間で研究内容を説明し、その後、質疑応答があります。審査員グループは3チームに分かれ、2日間に3回のインタビューを受けることとなります。

日本チームは、紙芝居で科学的な研究内容を分かりやすく表現することにしました。

テーマは、

”池干し”(ドビ流し)のミステリー

—先人の知恵の新たな知見—

池干しをすると、ため池の富栄養化が抑制され、田畑に流し込んだヘドロが栄養源に変わり多くの実りを得るという内容を5分間の紙芝居で表現しました。ポスター右の空白はスクリーンとして使い、池干しの過程をパワーポイントのアニメーションで表現することにしました。このアニメーションはなかなかの優れものです。木村君と松葉君の力作です。



**8月12日第1回目審査開始** 2007年08月24日(金)

第1回目の審査が開始されました。紙芝居は拍子木をカンカンカンという合図で、Hi, I'm Kintai. Hi, I'm old man Mussel. Hello, I'm Goby. ではじまりました。生徒たちは少し緊張しています。しかし、終わりまで落ち着いて発表できたようです。逆に、審査員の方がこの発表には意表をつかれたようで、はじめはどこを見ればいいのか迷っていたようです。少ししてキンタイくんが大きくあくびをしたり、息苦しさを表現するころには、ニコニコ顔で彼らの演技を観察していました。発表後、私はこの発表が好きです、とものすごく好感を持って話しかけ、彼らへの質疑応答が開始されました。まずはなぜこの発表(研究内容)をしようと思ったのですか。動機は？

松葉君が、先ずはじめはニッポンバラタナゴを保護しようと思って池干しをしたこと、池干しをすると池の水がきれいになり、ドブガイやニッポンバラタナゴが大量に増えたことはなし、そこで、この池干しの不思議さを科学的に分析してみようということでこの研究が始まったことを説明しました。次に、辻井君が、池の中の生態系について、ニッポンバラタナゴはドブガイに産卵し、ドブガイの幼生はヨシノボリに寄生することで成長できることを説明し、この関係が維持されないと保護できないことを告げました。そして、木村君が池干しをすると、池の中に溜まった有機物や栄養源が田畑に流され、池底を天日干しすることで、還元泥は酸化泥に変化し、珪酸が維持されること、また、田畑ではアンモニアやリン酸が栄養源として利用されることを解説しました。第1回目の審査は、かなり納得できる回答ができたようです。松葉君はキンタイが本当に好きでこの研究をしていることを自作したキンタイくん絵で力説しました。



**8月12日第1回目審査と2回目審査** 2007年08月24日(金)

第2回目の審査は、審査員の一人が遅れたため、終始時間を気にしながらの質疑応答でした。まずは、ヘドロの成分は何ですかという質問に、木村君は有機物だと答え、松葉君は汚染物質が含まれていても何度か池干しをするうちに汚染物質は流されていくということを答えたのですが、どうも質問の意図が分かりにくかったようです。その後、この研究内容をどのようにして農家の人に広めるかという質問に対して、ニッポンバラタナゴ高安研究会には多くの農家の人たちが参加していて、その総会でこれらの結果を報告した。また、地元の小学生を対象に環境教育も行っている、という写真を見せながらの回答であった。



### 8月13日第3回目審査と質疑応答 2007年08月24日(金)

第3回目の審査と質疑応答は、この活動をどのようにして世に広めるかという問です。生徒たちは、地元では地域の子も達を対象にした環境教育を実施すること、この秋には池干しを農家の人とたちと協力し合って実施することなどを回答していました。しかし、審査委員の人たちの質疑のポイントは、この研究は世界の水問題にどのように寄与することができるか、ということだったのではないのでしょうか。ここで学生たちが考えていた提案、つまり、池干し効果の応用編を披露するポイントだったと思います。

彼らの提案は、アジアモンスーンのデルタ地帯でも池干しを応用することができるということです。水田と養魚池を隣接させ、ヘドロを流しだす代わりに、毎年、水田と養魚池を輪番させる方法なんです。この提案は、アニメーションまで作ってあったのですが、披露する機会なく質疑応答が終わってしまいました。その他、乾燥地におけるため池の効果についてや、河川における水位の上下可動性などについての話す機会があればいいのには思ったのですが、短い時間では説明することができなかつたようです。

問題点はたくさんありましたが、三回の質疑応答に無事答えることができ、その満足感で彼らの顔はすばらしく輝いていました。この姿が何よりもの贈り物です。今回、参加するチャンスが彼らに与えられたことに本当に感謝すべきことだと思い、彼らの笑顔を見てると何かこみ上げてくるような気がしました。みなさん、ありがとうございます。



8月13日最終審査終了 2007年08月24日(金)

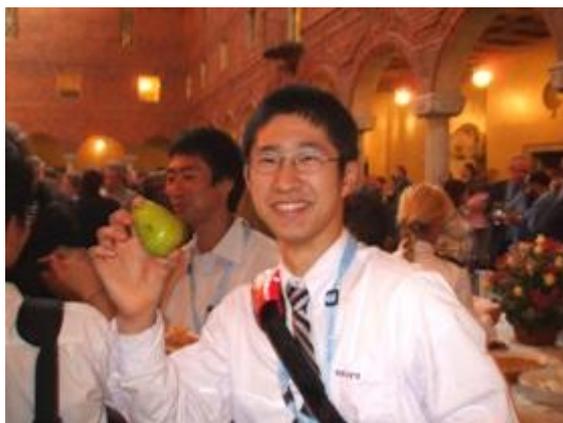
素晴らしい笑顔のファイナリスト

いま、この瞬間のために、すべての力が注がれたのです。  
君たち一人ひとりの時間と世界が重なった瞬間だと思います。  
この瞬間を大切に！



**8月13日ストックホルムシティーホールで歓迎会** 2007年08月24日(金)

8月13日(月)ストックホルムシティーホールで市長招待の歓迎会が行われました。このホールがノーベル賞受賞会場です。



**8月14日(火)ストックホルム青少年水大賞(SJWP)受賞式** 2007年08月24日(金)

日本を代表して、ニッポンバラタナゴ高安研究会の松葉成生君(関西大倉高校)、木村諭史君(清風高校)、辻井悠希君(清風高校)がストックホルム青少年国際水コンテストに参加しました。惜しくもグランプリ(大賞)を受賞ことはできませんでしたが、スウェーデン皇太子ビクトリア皇女からファイナリストとしての称号を授与されました。

今回のグランプリはメキシコが、準グランプリは中国が受賞しました。審査委員の話では、日本も最終審査まで残っていたそうですが、メキシコと中国の研究は、現在、両国における重要な社会問題となっている、河川の工業廃棄物による重金属の環境汚染を解決するという社会性の高い共通の課題に取り組んでおり、グランプリを獲得したそうです。

しかし、日本代表の彼らが、紙芝居で”池干しの効果”を科学的に解明した内容を、本当に分かりやすく説明したことに対して、審査委員たちは多大な関心と好感を示してくれました。3回の審査で、拍子木を打って紙芝居が始まると、会場の人たちが一斉に集まってきて、日本の審査ポスターの前は人だかりになってしまうほどでした。彼たちの発表は本当にすばらしいものでした。

詳しくは後ほど、日記記録として紹介していきます。

皆様、本当にご協力・支援ありがとうございました。心から皆様に感謝しております。ありがとうございます！



ストックホルム青少年水大賞のファイナリスト 2007年08月25日(土)



**8月16日 Perry L. McCarty 教授水ノーベル賞受賞** 2007年08月27日(月)

2007年度のストックホルム水大賞受賞者はUSAのPerry L. McCarty教授です。ストックホルムシティーホールで、水のノーベル賞であるストックホルム水大賞がスウェーデン国王から授与されました。



**ベルゲンの町とフィヨルド** 2007年09月21日(金)

2007年8月18日

今回の観光はノルウェーイのベルゲンのフィヨルド。スウェーデンのストックホルムは本当に美しい町なのですが、国際都市で町並みは超近代化され、町行く人々は世界の国々の人達が夏休みのバカンスに訪れているようで、北欧らしくなかったんです。しかし、ここベルゲンは本当に北欧のイメージがピッタシの町でした。もうみんなは最高の気分で、バカンスです。やることはやったもんね。みんなの笑顔がなんともいえません。

